

静寂の中の生命

藤原 光璃 神奈川県横浜市 三十三歳

漆黒の闇が、青白い光の残骸を飲み込む。瞼を閉じれば、デジタルの幻影が揺らめく。在宅勤務という名の孤島に閉じ込められていた。ある夜、ふとSNSを開くと、運命の光が煌めいた。ハオルチア。硝子細工のような葉が、宇宙の結晶のように輝いている。

衝動に駆られ手に入れた小さな鉢。しかし、その存在感は部屋中を満たすほどに大きかった。指先で触れる葉の感触。それは、画面越しには決して味わえない生命の鼓動。乾いた土の香りは、忘れかけていた大地の記憶を呼び覚ます。

ある日、Web会議の最中に結晶に目をやると、翠の中心に奇跡が宿っていた。小さな緑の結晶。新たな生命の誕生だ。思わず声を上げそうになり、慌ててミュートボタンを押す。画面の向こうの人々は、この小さな奇跡を知る由もない。

静寂の中で、確かに生命は息づいていた。キーボードを打つ指と、緑の宝石を見つめる目が、静かな対話を紡ぐ。やがて、この小さな緑との交感、凝り固まった思考をほぐしていく。アイデアが、結晶のように次々と形を成す。今や窓辺には小さな緑の集落。パソコン画面の喧騒とは対照的な、静謐な世界。その静けさの中に、確かな生命の存在を感じる。

分断された世界で、私たちの内なる自然との繋がりは決して失われていなかった。それは、自然の宝石が教えてくれた真実。この小さな緑こそが、デジタルの荒波を越え、私たちを本来の姿へと導く、静かなる羅針盤となっている。